

証券コード 6365

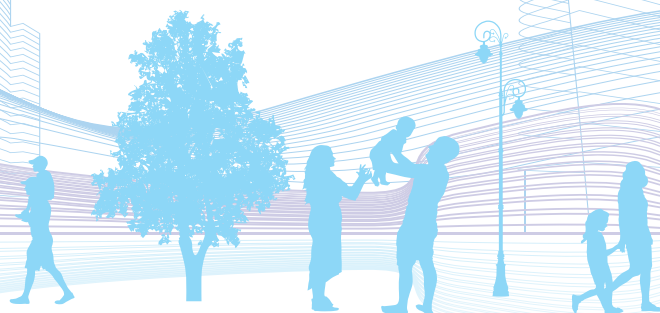


第87期

中間報告書

(2021年4月1日～2021年9月30日)

87th Interim Business Report



Passion for the Next Innovation

～ 次なる革新への熱い思い ～

Passion for the Next Innovation ~次なる革新への熱い思い~



ご挨拶

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

第87期第2四半期連結累計期間の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、3カ年計画として取り組んでいる「中期経営計画2022 D-Active」を鋭意推進中です。2年目となる今年度から「+1 Up（プラスワンナップ）」として一段高めた数値目標の達成を目指し、海水淡水化市場におけるDMWの知名度アップ、独創的な製品開発とビジネスモデルの確立など、重点テーマを着実に実行してまいります。

また、地球温暖化が世界的な問題となっている今、CO₂削減に貢献できる当社製品の提案を通じて、これまで同様に信頼できるDMWブランドの浸透を図ってまいります。

株主の皆様のご期待に沿うべく努力をいたす所存でございますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 村林秀晃

当第2四半期連結累計期間における受注はどのような状況でしたか。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国や中国経済の回復、各国における新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の普及に伴う経済活動の再開等により、全体として持ち直しの動きが続きましたが、多くの国で変異株による感染再拡大が見られ、また、世界的な半導体の供給不足、原材料価格の高騰、サプライチェーンの停滞などから、先行きは依然として不透明な状況にあります。わが国経済においては、製造業を中心に設備投資は堅調な動きが続いたものの、変異株による感染再拡大を背景に個人消費等が弱い動きとなったほか、半導体等の供給不足による輸出、生産への影響などから持ち直しの動きに足踏みがみられました。

このような中で、当第2四半期連結累計期間における受注額は、大型案件を受注できた官需部門は堅調でしたが、発注時期が遅れている案件の多かった海外部門と国内民需部門が前年同期に比べて減少したことなどから、前年同期に対し87.6%の111億70百万円となりました。

業績はいかがでしたか。

売上高については、官需部門と海外部門が前年同期に比べて増加したことから、前年同期に対し117.4%の75億79百万円となりました。利益については、前年同期に比べて売上高が増加したことなどから、営業損失は25百万円（前年同期営業損失99百万円）、経常利益は63百万円（前年同期経常損失20百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は52百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益29百万円）となりました。

当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高い

ため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節的変動があります。

通期の業績については、売上高230億円、営業利益23億円、経常利益24億円、親会社株主に帰属する当期純利益17億円を見込んでいます。

また当社グループは、従来から安定的な経営成績の確保と経営基盤の維持増強に努めています。株主の皆様へ安定的な配当をすることを基本に、当社グループで持つ経営資源を効果的に活用することとしております。これにより、一層収益力の向上と経営基盤の安定・強化並びに配当性向の向上に努めております。この方針を踏まえ、今年度中間配当につきましては、当初予定の45円から2円50銭増配し、1株につき47円50銭といたしました。なお、期末配当予想につきましては、当初予定の65円から5円増配し、1株につき70円に修正いたしました。

今後の取組みについてはどのようなものと考えていますか。

ポンプ・送風機市場で、グローバルニッチトップ企業を目指して、2020年度から2022年度までの3年間で

取り組む「中期経営計画2022 D-Active」を推進中です。

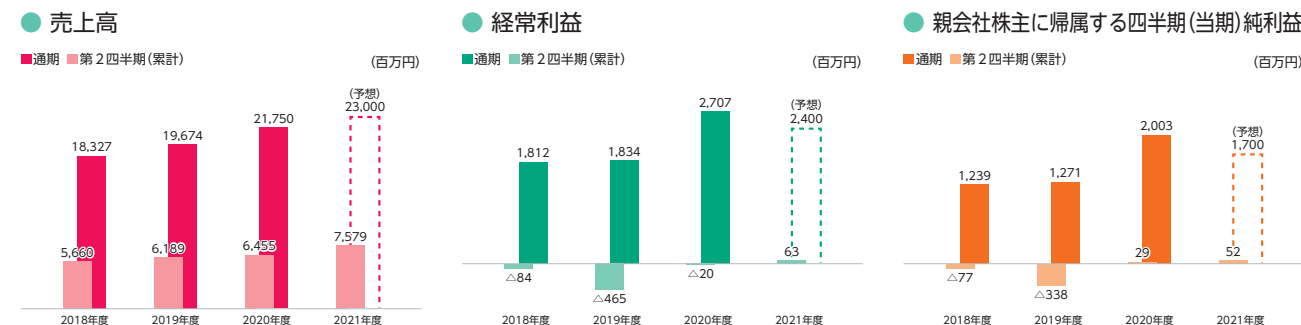
2021年度は、上期に堅調であった官需営業においては、お客様のニーズに即した提案を重ねて、更なるシェアの拡大を目指してまいります。国内民需営業については、新型コロナウイルス感染症の影響で低調だった設備投資の回復に期待しながら、得意分野である海水ポンプの整備・修理などに加え、脱炭素社会に向けた新たな需要にも目を向けた営業展開を図ります。海外営業については、今秋、アブダビからドバイへ移転した中東支店を拠点として、オイル&ガス市場に加えて海水淡水化市場へのアプローチに、より一層注力してまいります。

社員総活躍企業として、熱い思いで自らが牽引者となり、選ばれる会社に変身することを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

連結財務ハイライト



技術研究所の完成

昨年、当社は創立65周年（創業110周年）を迎え、記念事業の一環として、1961年から約60年間使用してきた旧研究所に代わり、新たに建設していた技術研究所が、このたび竣工しました。

新技術研究所は、一部2階建て構造とし、試験場、操作室、会議室に加えて電装盤の試験場を備えています。耐震、防音構造として周辺地域の生活環境に配慮し、屋上緑化を採用することにより、CO₂の削減などにも配慮しています。



研究設備としては、大型の調圧タンクを備えた閉ループのポンプ試験設備と水槽を有しており、より実際の環境に近い状態を再現して、模型ポンプの性能試験を実施することができるようになりました。さらに、試験場レイアウトの最適化による試験段取り時間の削減、新自動計測システム導入による試験時間の短縮等により、研究開発の生産性向上を実現しています。これにより、開発を強力に押し進め、お客様のご要望を取り入れた製品を、より高い品質にて投入できるようになります。

このたび完成した新技術研究所を大いに活用し、経営理念に掲げるコアコンセプト「技術創生」のもと、電業社ブランドを浸透させ、社会と顧客の変化に対応した新たな製品開発を推進し、全てのステークホルダーから信頼され、選ばれる企業を目指してまいります。



試験場



屋上緑化

建物概要

▶▶ 構造：鉄骨造 ▶▶ 階数：地上1階建（一部2階建） ▶▶ 延床面積：1,150㎡

大阪府北部流域下水道事務所 摂津ポンプ場向け雨水ポンプ設備受注

安威川流域下水道は、淀川水系安威川の流域を処理区とした流域下水道であり、1970年に千里丘陵で開催された万国博覧会会場の汚水を処理するため、全国初の流域下水道として供用開始しました。摂津ポンプ場は、その安威川流域事業の施設として重要な役割を担ってきましたが、当社が製作及び設置してから30年を経過したNo.2とNo.3の雨水ポンプ2台（口径2,000mm/揚程18.6m/出力2,970kW）について、このたび更新工事が発注され、受注しました。当該工事は、設備の老朽化対策と同時に危機管理対策として雨水ポンプ場の所定排水能力を確保するため、1台あたりの排水能力を増強（吐出量563m³/minから672

m³/minへの増強）した雨水ポンプに更新することによって、機場全体の排水能力が向上し、既設の雨水ポンプを予備機として設置することが可能となります。

当該ポンプは分流式下水道の雨水ポンプであり、特徴として高流速型・無注水式・回転数制御有りの仕様となっています。また排水能力を増強することにより、ポンプの運転に悪影響を及ぼす渦が発生する懸念があるため、「流れ解析シミュレーション」を行い、渦流防止対策の検討を実施します。現在、2024年5月完成に向けて設計・製作中であり、再び当該機場において浸水に対する安全度を一層向上させ、内水浸水対策に貢献できるよう取り組んでまいります。



三島市と災害協定を締結

当社は、2021年10月27日に三島市と「大規模災害時における生活用水の供給に関する協定」を締結しました。

本協定は、三島市で地震、風水害等の大規模災害が発生した際に、三島市からの要請に基づき、当社三島事業所に設置している井戸を利用して生活用水として供給するものです。

本協定の締結にあたり、三島市役所において締結式が行われ、豊岡三島市長、当社社長の村林が出席しました。協定締結後、当社の地域貢献や行政の取り組み等について意見交換が行われました。

当社では、今後も自治体との連携を一層深め、被災地域への生活用水の供給を始めとした地域防災に寄与できるよう努めてまいります。



締結式（左：豊岡三島市長、右：当社社長）

日本赤十字社 金色有功章を受章

当社は、2021年11月5日に開催された「日本赤十字社静岡県支部 創立130周年記念大会」において、「金色有功章」を受章しました。

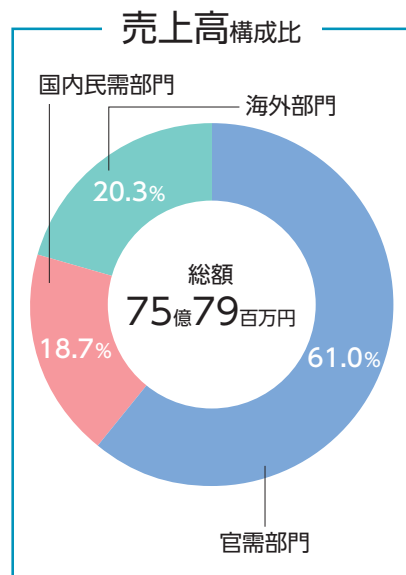
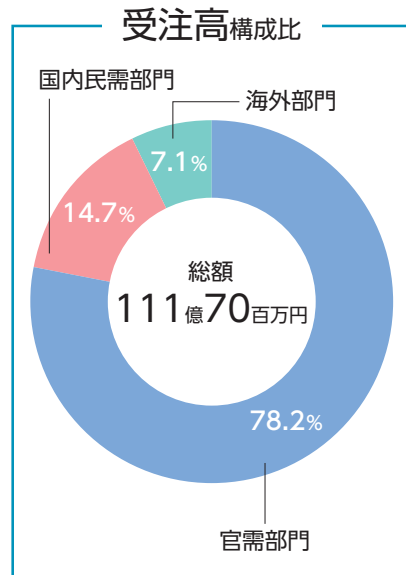
「金色有功章」は、日本赤十字社の表彰制度で、一定額以上の寄付を行った個人・法人などに対して贈られるもので、日本赤十字社における最高位の表彰となります。

今回の受章は、昨年、当社が創立65周年（創業110周年）記念事業の一環で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への活動支援として、日本赤十字社静岡県支部に対して1,000万円の寄付を行ったことが評価されたものです。

記念大会では、ご臨席された日本赤十字社名誉副総裁である高円宮妃殿下より「金色有功章」が授与されました。

今回の受章を励みに、今後も良き企業市民として社会貢献活動を推進してまいります。

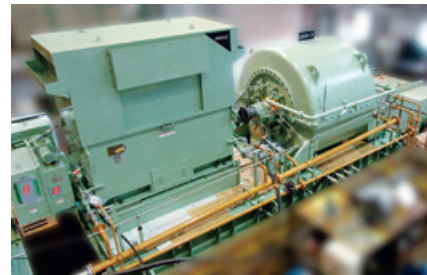




官需部門

受注高 **87億39百万円**
(前年同期比109.7%)

売上高 **46億28百万円**
(前年同期比119.3%)

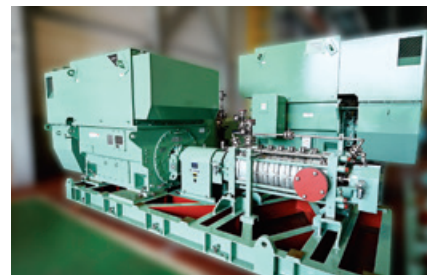


●下水道設備向け送風機

国内民需部門

受注高 **16億41百万円**
(前年同期比89.4%)

売上高 **14億14百万円**
(前年同期比93.6%)



●海水淡水化装置用ポンプ

海外部門

受注高 **7億89百万円**
(前年同期比26.8%)

売上高 **15億37百万円**
(前年同期比144.6%)



●石油化学プラント向け送風機

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 2021年9月30日現在	前期末 2021年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	18,451	23,367
固定資産	7,140	7,278
有形固定資産	3,879	3,965
無形固定資産	231	232
投資その他の資産	3,029	3,080
資産合計	25,591	30,645
(負債の部)		
流動負債	4,578	9,553
固定負債	106	112
負債合計	4,684	9,666
(純資産の部)		
株主資本	20,339	20,397
資本金	810	810
資本剰余金	115	111
利益剰余金	20,438	20,503
自己株式	△1,024	△1,027
その他の包括利益累計額	567	582
純資産合計	20,907	20,979
負債純資産合計	25,591	30,645

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

電業社機械製作所 検索 詳細な情報につきましてはホームページをご覧ください。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2020年4月1日から 2020年9月30日まで
売上高	7,579	6,455
売上原価	6,033	5,162
売上総利益	1,546	1,292
販売費及び一般管理費	1,571	1,392
営業損失(△)	△25	△99
営業外収益	103	98
営業外費用	14	18
経常利益又は 経常損失(△)	63	△20
特別利益	28	77
税金等調整前 四半期純利益	91	57
法人税等	38	27
四半期純利益	52	29
親会社株主に帰属する 四半期純利益	52	29

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

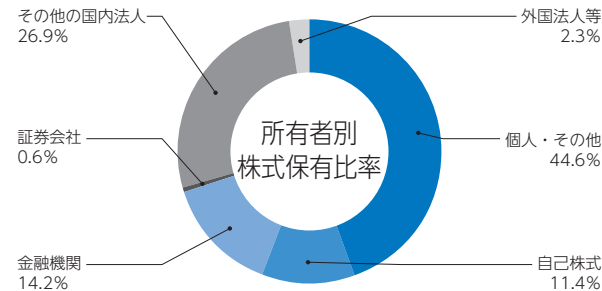
科目	当第2四半期(累計) 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	前第2四半期(累計) 2020年4月1日から 2020年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,739	3,623
投資活動によるキャッシュ・フロー	△527	△459
財務活動によるキャッシュ・フロー	△282	△389
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	918	2,769
現金及び現金同等物の期首残高	7,005	7,326
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,923	10,095

(注) 記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

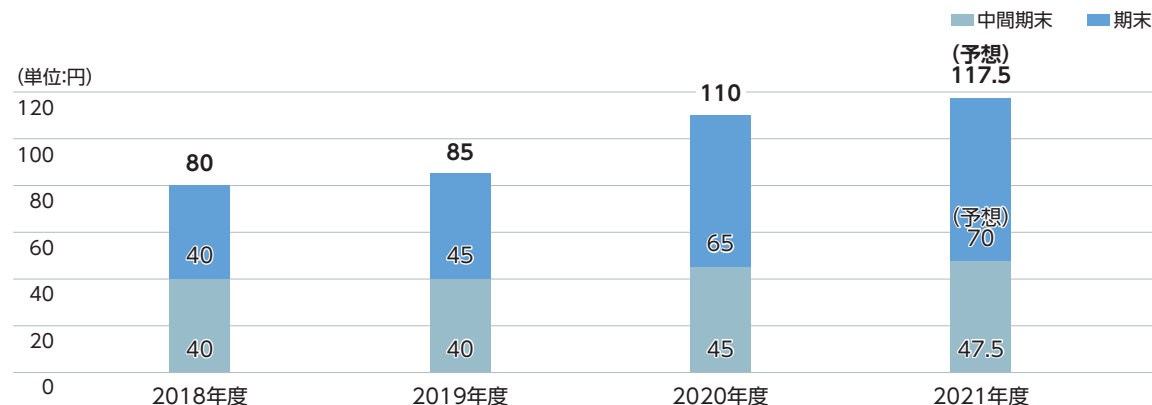
株式の状況

■発行可能株式総数	19,107,600株
■発行済株式の総数	4,776,900株
■株主数	2,984名

株主構成



1株当たり配当金



(注) 2020年度中間期末配当金の内訳 普通配当42円50銭、創立65周年記念配当2円50銭

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社GM INVESTMENTS	506	11.98
電業社取引先持株会	236	5.59
明治安田生命保険相互会社	175	4.15
光通信株式会社	150	3.57
株式会社明電舎	127	3.01
三井住友海上火災保険株式会社	121	2.87
一般財団法人生産技術研究奨励会	120	2.84
株式会社三菱UFJ銀行	104	2.47
水道機工株式会社	70	1.67
株式会社鶴見製作所	65	1.54

(注) 1. 当社は、自己株式 (544千株) を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しております。

会社概要 (2021年9月30日現在)

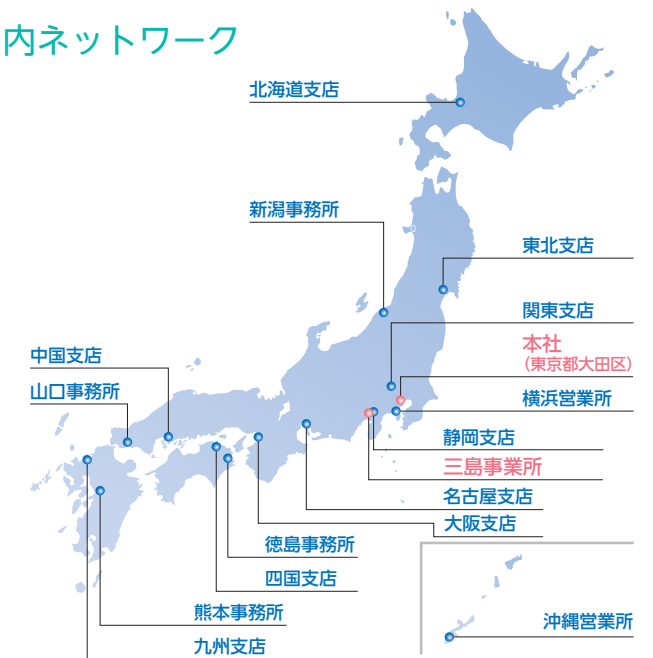
■商号	株式会社 電業社機械製作所 (DMW CORPORATION)
■所在地	東京都大田区大森北一丁目5番1号 〒143-8558 TEL 03 (3298) 5115
■資本金	810,000千円
■グループ従業員数	639名 (うち契約社員75名、パートタイマー39名)

取締役及び執行役員 (2021年9月30日現在)

代表取締役社長 最高執行役員社長	村林 秀 晃
取締役 上席常務執行役員	彦坂 典 男
取締役 常務執行役員	稲垣 晃
取締役 上席執行役員	濱田 耕 一
社外取締役	上地 崇 夫
社外取締役	杉井 守
取締役 (常勤監査等委員)	鯉沼 博 行
社外取締役 (監査等委員)	住田 知 正
社外取締役 (監査等委員)	多田 修
上席執行役員	山岸 嗣 宏
執行役員	青山 匡 志
執行役員	原 広 志
執行役員	永田 元 彦

ネットワーク (2021年10月31日現在)

国内ネットワーク



国内子会社

- ・電業社工事株式会社 (本社：静岡県三島市)
- ・株式会社エコアドバンス (本社：静岡県三島市)

海外ネットワーク

海外拠点

- ・中東支店 (アラブ首長国連邦 ドバイ首長国)
- ・シンガポール支店
- ・大連事務所 (中国)
- ・米国拠点 (ヒューストン)

海外子会社

- ・DMWインド社 (本社：ムンバイ/工場：プネ)

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日
- 中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 公告の方法 電子公告により当社WEBサイトに掲載
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(各種手続き先)

1. 株式に関する各種手続き(住所・氏名の変更、配当金振込口座の指定・変更、単元未満株式の買取請求等)につきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
2. 株券電子化に伴う証券会社等の口座への振替手続きがお済みでない株式(特別口座に記録された株式)に関する各種手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 銀行取扱い期間終了後の未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 株式会社 電業社機械製作所

〒143-8558 東京都大田区大森北一丁目5番1号
TEL(03)3298-5115(代表)

ホームページのご案内

最新のIR情報につきましては、当社のホームページ「IR情報」をご参照ください。

当社ホームページ <https://www.dmw.co.jp/>



▲TOPページ

- 富士山ライブカメラの映像を掲載しています。
富士山のリアルタイムの映像をお楽しみいただけます。



森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用しています。



環境に配慮した植物インキを使用しています。